



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@qj8-so-net.ne.jp

http://www.yuayouth.or.jp

発行人：川手正一郎

編集人：鶴巻克雄

隔月1回 10日発行

購読料

年額 3,000円

特集

友愛活動の原点!

軽井沢友愛山荘

好評稼働中 研修・合宿に活用

財団法人日本友愛青年協会は、その寄付行為(定款)の第四条「事業」に「青年の研鑽の場としての「友愛山荘」等必要な施設の設置及び運営」を掲げている。現在財団が運営する「友愛山荘」は、軽井沢友愛山荘のみであるが、この地は、創設者鳩山一郎先生がこよなく愛した地であり、「友愛活動」の構想を固めた「原点」ともいえる場所である。

今、軽井沢友愛山荘の前庭には、平成十八年に護国寺より遷座された「鳩山一郎」先生の像が修復、建立されており、訪れる人を迎えている。今期も四月一日のオープン以来、既に例年を上回る多くの方々の利用があり、「軽井沢友愛山荘」は、その役割を十分に果たしている。その状況、活躍振りをお伝えすべく、特集記事組んだ。

鳩山友愛塾 第一期塾生 夏休み合宿実施 友愛山荘杯テニス大会開催



友愛山荘の庭より建物を望む。シンメトリーの建物が独特の雰囲気醸している



大激戦の後、テニスコートで。いい汗かいた!



名コーチ、迷生徒も現れ、和気藹々の練習



まとめ役渡辺さんの挨拶。この後激論大会に

四月に開塾した「鳩山友愛塾」は、全国から精鋭が集い、月二回の講義には、各界からの第一人者を講師として招き、第一期講義を順調に展開している。(関連記事三回)



天候にも恵まれ、日差しの中で記念撮影



ピアニスト石川直美さん(手前)も指導担当



発表会、少し緊張。軽井沢に素敵な歌声が



声楽家島崎照代先生が歌唱指導



近隣の方々も参加して。皆で声を揃えてドイツの歌を

ドイツの歌の会 練馬区登録ミニコンサート開催

八月は夏休みになることから、塾生の中で「休みの間も仲間会いたい」との声があがり、夏期合宿を行うこととなった。また、「財」日本友愛青年協会が運営する「軽井沢友愛山荘」にも宿泊したいとの要望もあり、合宿の地は軽井沢に「目的は「塾生同士の話し合い」であるが、友愛山荘にはテニスコートがあることから、第一回「友愛山荘杯」を賭けたテニス大会を開催することとなった。

当日は軽井沢でも珍しいという気温三五度を超える猛暑日。集まった面々は、山荘のテラスで、話し合い第一弾を展開、少し日差しが落ちて午後四時、テニス大会を開催。初心者、経験者、技量の差はあるものの、仲間同士の親密さで練習開始。その後のトーナメントも楽しい笑い声に終始した。

食事の後、会議室に場所を移し、話し合いが開始された。皆が抱える熱い思いを互いが語り、真摯で率直な意見が交わされる。年齢職業全てを超えて、鳩山友愛塾一期生としての話し合いは、深夜遅くまで続いた。

東京都練馬区の文化団体として登録されている「ドイツの歌の会」(大井昌子代表)は、発声から歌詞の解釈までと、ドイツ歌曲に関する勉強活動を行っている。その発表会の場として、軽井沢友愛山荘でのミニコンサートを開催した。

「小さい秋を見つけたんか」と呼びかける案内を作成、軽井沢の地元の方々にも呼びかけた。

この会で歌唱指導を担当しているのは、「友愛」の島崎照代評議員。ピアノは、昨年のドイツ歌曲コンクールの際にも、招聘学生のピアノ伴奏を担当してくださった。

「小さい秋を見つけたんか」と呼びかける案内を作成、軽井沢の地元の方々にも呼びかけた。

この日ドイツ歌曲に叙情歌にと、ピアノは大活躍だ。ドイツ歌の会の会員の方々、地元の参加者一体となつての美しい歌声が、堂にも流れていた。

友愛時評

風の盆というのは、二百十日とか二百二十日という台風のシーズンに合わせてお盆の行事を行うことである。これによって台風が故郷をよけてほしい、という願いが込められている。風鎮と豊作祈願が原点にある。毎年九月の一日から三日にかけて、街は風の盆一色となる。三味線と独特の音色をもった胡弓が流れる。衣装を合わせた若い婦人がゆつたりと踊って初秋の街をねり歩く。富山県八尾の人口二万人程度のこの街が、全国から来るファンによって三十万人ほどにふくれあがる。私は一年続けてこの「風の盆」に出かけて行った。最初の年は見物客の多さに、何が何だか解らないまま帰ってきた。そこにいるいと調べた末に、策を練り改めて出直すこととした。八月の末から九月一日を、近くの温泉宿に投宿して風の盆を見た。あまりのいいとさに、街外れで踊り(当人は)を落ち着いて鑑賞し、流れる音を楽しむことができた。二年がかりでやっと「風の盆」を鑑賞し、満足して帰ってきた。東京でもやりたいという人や、見たいという人が協力して、白山の私の家の近くでも行われたことがある。お盆という行事を、我が国独特の「夏祭り」の一つとして考え、これからますます持続して行ってほしいものだと思う。(ふえ)

友愛婦人会 恒例夏期旅行で軽井沢に

八月二十七日(水)から二十九日(金)、二泊三日の日程で例年通り、軽井沢友愛山荘を利用、一行三十名が軽井沢の夏を楽しんだ。

夏期旅行は、友愛婦人会の恒例行事で、毎年軽井沢を訪問、友愛婦人会は、友愛山荘の常連様となっている。本年も天候に恵まれ、貸し切りバスを仕立てての軽井沢行きとなった。

二泊目となる二十八日には、鳩山邦夫代議士田中昭彦秘書と、鳩山太郎さんがゲストで登場。また、軽井沢の顔、鳩山別荘の管理を



太郎さんも俄フラダンスに。流石のリズム感!



太郎さん・鳩山邦夫代議士田中さんを囲んで



鳩山別荘の小久保さんも登場



おしゃべりに踊りに、楽しいお食事。笑い声が満ちて



山荘前庭で記念撮影。後列中央は、東京大学大学院中国語中国文学研究室木村英樹教授。教授も友愛山荘のファンで、毎年ご利用くださっています



おしゃべりは中国語で? 全員が専門家です



木村教授(手前右)と楽しく語らいながらの食事。左列一番奥がお手紙の主、前田真砂美さん

利用者からの便り 東京大学大学院中国語中国文学研究室 木村教授ゼミ夏期合宿実施

財団法人日本青年協会御中
東京大学中文研究室の前田真砂美です。
先月二〇〜二十二日に軽井沢友愛山荘にてゼミ合宿を行いました。無事終えることができました。

事務局の皆様には色々とお手数をおかけいたしました。山荘のスタッフの方々も何かと便宜を図ってください、お陰様で快適で有意義なゼミ合宿を行うことが出来ました。心より感謝申し上げます。

機会がございましたら是非また利用させていただきたいと存じますので、その際には何卒よろしくお願ひ申し上げます。

遅くなりましたが、ご挨拶がたが御礼まで。

軽井沢友愛山荘は、全国各地の方が利用しています。また、企業研修、ゼミ合宿、親睦会等利用される等目的も様々だが、利用した方々からは、異口同音に「良かった」、「また行きたい」と好評を得ている。

本号では、いただいたお便りの中から、軽井沢友愛山荘ファンの方を代表して、一通をご紹介します。

お便りの主は、八月二十日から二泊三日の日程で宿泊した、「東京大学大学院中国語中国文学研究室」のゼミ合宿幹事を務められた前田真砂美さん。利用前に事務所を訪ねて、綿密な打ち合わせをするという、きめ細やかな心配りの幹事さんだ。嬉しいことに、木村教授が山荘のファンで、毎年利用とのことだ。

なお、お便りのご本人、前田真砂美さん、及び木村教授ゼミのご協力、ご了解を得て、お写真も掲載させていただきます。紙面をお借りして御礼申し上げます。

私は以前、ドイツ歌曲を学ぶために、ドイツへ三年半ほど留学していましたので、今回は通常の「音楽コース」ではなく、「ドイツ歌曲(リート) 解釈」というコースを選択しました。

このコースでは、「歌曲の歌詞の内容等をどのように解釈して歌うか」ということを勉強します。長年歌手とペアを組んで活躍している、ピアノistの方と習うことになりました。

今回レッスンを担当してくださった、ワルター・モア先生は、歌い手をどのように指導すればいいか、とてもよく熟知していらっしゃいました。

ドイツ歌曲の心
私の発音、表現などをすぐに理解してください、悪いくせを的確に厳しく指摘し、いい方向へ導いてくださいました。



先生とのレッスン風景。良き師との出会い



ワルター・モア先生(右)と大野さん(左)



第18回友愛ドイツ歌曲コンクールに出場時の大野さん。表現力が評価され、見事「日本歌曲賞」を受賞した

私にとっては初めてでありながら、すべて納得のいくご指導でしたので、自身でさえ、自分が短期間で変わっていくことを感じました。

コンクールに参加期間中にゼミナール内のコンクールにも参加することになりました。

このゼミナールで、日本では学べない多くのことを学ぶことができました。

このような機会を与えていただいたことに対し、ご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

七月二十六日から八月十日までウィーン国際夏期音楽ゼミナール二〇〇八に、(財)日本友愛青年協会からのご推薦をいただき、奨学生として参加させていただきました。

再び本場での勉強

私にとっては初めてでありながら、すべて納得のいくご指導でしたので、自身でさえ、自分が短期間で変わっていくことを感じました。

コンクールに参加期間中にゼミナール内のコンクールにも参加することになりました。

このゼミナールで、日本では学べない多くのことを学ぶことができました。

このような機会を与えていただいたことに対し、ご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

〇JAB主宰国際ゼミナーを終えて
出会いと発見
大野美沙

(財)日本友愛青年協会では、姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟(OJAB)と協力し、毎年ウィーンで開催されるOJAB主宰のゼミナーに奨学生を推薦している。今年度のゼミナーに参加した大野美沙さんから寄せられた、報告書をご紹介します。

参加決定
七月二十六日から八月十日までウィーン国際夏期音楽ゼミナール二〇〇八に、(財)日本友愛青年協会からのご推薦をいただき、奨学生として参加させていただきました。

再び本場での勉強
私にとっては初めてでありながら、すべて納得のいくご指導でしたので、自身でさえ、自分が短期間で変わっていくことを感じました。

コンクールに参加期間中にゼミナール内のコンクールにも参加することになりました。

とができ、今回学んだことを披露する機会にも恵まれました。

言葉の大切さ
歌曲において「言葉」がどれほど重要かを、改めて実感しました。

また、ウィーンというまさに音楽の都という街の風景や建物、食べ物や人々の習慣などに多くの出会いと発見がありました。

最後に
このゼミナールで、日本では学べない多くのことを学ぶことができました。

NPO法人日本けん玉協会主催 第6回けん玉ペインティングコンテスト

(財)日本友愛青年協会賞 三富萌さん9歳受賞

8月31日 東京池袋サンシャインシティにて表彰式開催



三富萌さんの作品 爽やかな顔色が基調



(財)日本友愛青年協会賞の賞状



ロビーの大きなけん玉。受賞者三富萌さん(左)と鶴巻克雄常務理事

(財)日本友愛青年協会は、事業活動として、「文化振興、他団体との協力」を謳っている。その一環として、NPO法人日本けん玉協会が主催する「けん玉ペインティングコンテスト」に、「日本友愛協会賞」(個人一名及び団体への奨励賞)を提供し、活動の協賛を行っている。

八月三十一日(日)東京池袋のサンシャインシティで、第六回ペインティングコンテストの表彰式が行われ、鶴巻克雄常務理事が出席、友愛賞の授与を行った。

日本けん玉協会は、競技の振興を進める一方、ペインティングコンテストを開催し、文化芸術分野でも活躍している。

財団「友愛」の奥住壽監事は、けん玉の有段者、けん玉協会の役員も務めることから、縁が生まれた。「友愛」が実施する植林活動の際に、けん玉協会からも参加等協力いただいている。また、昨年「友愛」が実施した、「日中文化・スポーツ年」の外務省公式行事の際には、けん玉協会からチャンピオン二名の派遣を受け、中国において「けん玉ペインティング・競技大会」を開催、成功裡に終わった。(四九三号既報)

けん玉といえば赤い玉を連想される方が多いが、けん玉ペインティングは、白木のけん玉をキャンパスとして、デザインを施す。題材も、けん玉をどのように見立てて描くかも自由、独創的な作品が生まれる。

第六回となった今回のコンテストには、全国から四〇〇〇の応募があり、毎年参加者は増え、芸術関係者からも注目されている。「友愛」賞は、山形県から応募の三富萌さん(九歳)が受賞、その他三団体に団体賞が贈られた。

またこの日は「けん玉競技会・小学生の部」も開催され、全国各地から勝ち上がった選手が、優勝を目指して戦った。



「友愛」の奥住壽監事、ペインティング大会実行役として大活躍



個人、他、三団体に友愛賞が贈られた



前期講義終了後のビアパーティ。講師・役員・塾生一つになって、鳩山会館の庭で歓談の時をすごした



テーマは「友愛」。鳩山由紀夫塾長代行



豊富な資料、具体的な講義内容 寺島実郎先生



毎回活発な質疑応答が行われる



鳩山邦夫塾長代行とも歓談できる程に慣れました

鳩山友愛塾 講義に懇親に充実の前期講義終了

鳩山会館庭園にてビアパーティ開催 夏休み合宿も実行

鳩山友愛塾は、四月の開設以来、毎月二回の講義開催、その他の活動など、確実に歩みを続けている。

七月の第二回目の講義終了後には、鳩山会館の庭園にて、塾長、塾長代行を始めて、役員も参加、塾生と語り、ビアパーティを交わす。

また、八月には、塾生の発案で、軽井沢友愛山荘での合宿も行われるなど、親睦の度も深まっている。

学ぶ、人との絆を深める、と、両輪の回転は順調だ。

七月八日 第六回 講師：(財)日本総合研究所 寺島実郎会長
テーマ：2008年への視座、世界潮流と日本の進路を考える

七月二十一日 第七回 講師：鳩山由紀夫塾長代行
テーマ：「友愛」

前期の最終講義は、講師としての登壇は初となる、鳩山由紀夫塾長代行が担当した。

公務で全国遊説を続けていたとのこと、日焼けした笑顔で、塾生に話しかけた。その遊説中も、パソコンを持ち歩き、寸暇を割いて書き上げたという資料を基に、講義は進められた。

開塾時は硬かった塾生も塾長、塾長代行に積極的に話しかけ、時間が菜いた「人の和」が、鳩山会館の庭に咲きそろうていった。

1 友愛の理念、2 友愛の外交を柱に、祖父一郎先生の想い、カレルギー伯の想いを絡め、自身が考える友愛について、論理的な講義が進められた。

塾生にとっても要となる「友愛論」開陳に、全員が心を集中して聞き入った。塾生からは、もっと深く友愛を知りたいと、次回に期待する声があがった。

……

講義終了後、鳩山会館庭園に会場を設け、関係者一同の懇親ビアパーティが開催された。

財団法人日本友愛青年協会 主催
 平成20年度 文部科学大臣奨励賞
第19回 友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール

10月1日(水)より受付開始 【締め切り 10月15日(水) 必着】

ウィーンのベーゼンドルファーホールにおけるコンサート ÖJAB主催



平成18年度 第一位 八木寿子さん



平成19年度 第一位 石井 藍さん

(財)日本友愛青年協会では、青少年の音楽文化の促進と、音楽技能の向上を目指し、姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟と協力して、毎年「友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール」を開催しています。

第一位の方には、平成20年度文部科学大臣賞が授与され、併せて本協会実施する国際交流事業の一環として、ウィーンで開催されるコンサートに出演すべく派遣いたします。(左写真)

本コンクールが、ドイツ歌曲を学ぶ若い有能な声楽家の育成に寄与することを願っています。多くのご参加をお待ち申し上げております。(詳細下段)

参加資格 満18歳~満35歳(2008年4月1日現在)国籍、学歴、音楽歴は問いません
 A:学生(18歳~24歳までの在学生) B:一般(大学院生を含む)

応募方法 所定の申込用紙に必要事項を記入し、事務局まで郵送(参加料振込証書のコピーを添付のこと)

課題 予選曲 指定曲:シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より2曲。
 自由曲:指定曲以外のドイツ歌曲を2曲。
 (指定曲+自由曲とも自由選曲で計4曲。例えばシューベルト4曲でも可)
 本選曲 演奏曲目は開始より終了まで、学生の部は10分以内、一般の部は12分以内の自由曲。
 ※日本歌曲を必ず1曲含めること(予選曲1曲を含めることは可)

参加料 19,000円(一般の部) 15,000円(学生の部)

受付期間 2008年10月1日(水)~10月15日(水) 必着

コンクール日程

一次予選 日時:2008年10月28日(火) 10:30~20:00
 会場:文京シビックホール 小ホール 公開 入場無料

二次予選 日時:2008年10月31日(金) 15:00~20:00
 会場:旧東京音楽学校音楽堂(東京都台東区上野公園8-43) 公開 入場無料

本選会 日時:2008年11月28日(金) 16:10開場 16:40開演
 会場:旧東京音楽学校音楽堂(東京都台東区上野公園8-43)
 公開 全席自由 一般2,000円 学生1,000円

賞 第1位:表彰状、20万円 第2位:表彰状、20万円 奨励賞:表彰状、5万円(学生の部)
 日本R・シヨトラウス協会賞:表彰状、5万円 日本歌曲賞:表彰状、5万円 他

最優秀者は文部科学大臣奨励賞および副賞として平成21年3月にウィーンで開催されるÖJAB主催の演奏会に出演できます。(ウィーンまでの往復航空券と8日間のご招待)

審査員 朝倉憲生、菅 英三子、高橋啓三、原田茂生、ヨスア・バルチュ、本島阿佐子、コントラ・リッター、島崎照代

協力 オーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)、ローゼンホテルオーストリア

後援 外務省、文部科学省、オーストリア大使館、ドイツ連邦共和国大使館、日徳文化協会、社団法人日本演奏連盟

協賛 (株)音楽之友社、(株)河合楽器製作所、ヤマハ株式会社、日本R・シヨトラウス協会

お問い合わせ先

応募要項・申込書を電話またはFAXでお取り寄せください。

財団法人 日本友愛青年協会 事務局
 〒112-0002 東京都文京区小石川1-10-13 小石川天文ビル2階
 Tel 03-5684-3188 Fax 03-5684-3186
 E-mail: yuai@qj8.so-net.ne.jp http://www.yuaiyouth.or.jp

※なお、申込書は日本友愛青年協会ホームページからダウンロードできます



玄関にある一郎先生の書



庭を見晴らせるロビー

十一月末まで利用できます
大いに活用を!

今号の特集でご紹介した軽井沢友愛山荘は、十一月末までご利用いただけます。秋の紅葉の季節は特にオススメです。申し込み・お問い合わせは事務局までどうぞ

満面の笑顔を披露された一郎先生。一郎先生の左隣には岸信介先生、その隣は三木武吉先生、政治の重鎮が集って、一体何を話されているのでしょうか。一郎先生は、大きな椅子を右隣の重光愛先生に譲り、小さな椅子に掛けていらつしやいます。一郎先生のお人柄が、この一コマの小さな出来事に現れています。写真の上部が欠けているのが残念ですが。



友愛アルバム
 とっておきの一コマをご紹介します

時事川柳 服部道夫 作

北島二連覇金メダル
 下町に行列できるメンチカツ
 面目は保てたか
 黒帯に起死回生のダンテイズム
 ジャマイカ旋風
 鳥の巣をカリブの風が席卷し
 段階的に下がる価格
 ガソリンの笑顔が戻る行楽地
 プロ野球・優勝は
 追う者と追われる者の天王山

機関紙『友愛』原稿募集

20年度より、機関紙『友愛』に「会員からのお便り」の欄を設けます。会員の皆様のご投稿をお待ちいたしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節のお便り等々、何でも結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。締切り:特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願い致します。

要領:手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。
 写真:紙焼き(カラー・白黒)・デジカメデータどちらでも。

今年(キ)の夏は変な陽気でした。雨の振り方が、暑くなる時期も、夏と秋の変わり目も、やはり温暖化が...と思ってしまう。でも夏休みに行つた上田、千曲川の鮎はちゃんと太つていて、美味しさは例年通り、安心しました。自然の恵みを、本気で護らなくてはと思ひました。自分自身の身の回り、出来ることからコツコツとです。(モ)

九月に入り、小石川、本郷界隈でも秋祭りの準備で賑やかです。私が子供の頃は、家の軒先が御神酒所に早変わりして、母や、大人達が忙しそうにしているのを眺めていました。その特権(?)が、いつも子供山車は引く役ではなく、上に乗って太鼓をたたいたのを覚えてます。少子化で山車を引くのもバラバラ、大人も手伝っています。秋祭り、御輿、子供山車、残したい風景です。(エム)

